

令和4年度（2022年度）行政評価シート【個表】 令和4年7月29日

評価対象事業		評価者	商工課長 田邊 幹浩	
市民-22	商店街振興事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課	商工課
		<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	産業振興	施策の方針	商工業振興の充実

1 事業の目的

対象	商店街団体
意図	商店街団体が行う各種事業に対して支援を行い、商店街の活性化を図るため。
効果	地域産業を振興し、雇用の創出と税収の確保を図る。

2 令和3年度(2021年度)に実施した事業の概要

専門家の助言を必要とする商店街団体に対してのアドバイザー派遣は申込みがなかった。  
 鎌倉市商店街連合会の組織強化と活性化を支援した。  
 商店街団体の街路灯及び電飾アーチの電気料金の全額を助成した。  
 商店街団体が実施する売上の増加が見込まれる事業、地域住民との交流が見込まれる事業等に要する経費の一部、又は全額を助成した。  
 商店街団体が実施する共同施設の設置に要する補助はコロナ禍により予定していた事業が実施できず申込みがなかった。

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和3年度		令和4年度	達成度	
				指標(実績値/目標値)	指標(目標値)	指標(目標値)		
				事業費(決算/当初)(千円)		予算額(千円)		
01	商店街アドバイザー派遣事業	商店街アドバイザー謝礼	商店街アドバイザー派遣回数(回)	0 / 8	8	8	0.00%	
02	鎌倉市商店街連合会助成事業	商店街連合会補助金	市内商店会の会員店舗数の合計(店舗)	1,893 / 1,924	1,894	1,894	98.39%	
03	商店街街路灯等助成事業	商店街街路灯等維持管理費補助金	対象街路灯数(本)	823 / 809	823	823	101.73%	
04	商店街活性化事業助成事業	商店街活性化事業費補助金	商店街活性化事業に申請した商店会数(団体)	20 / 20	20	21	100.00%	
05	商店街共同施設設置助成事業	商店街共同施設設置費補助金	商店街共同施設設置助成事業に申請した商店会数(団体)	0 / 8	8	4	0.00%	
06				/				
07				/				
08				/				
09				/				
10				/				
				国県支出金		12,298		
				地方債		/		
				その他特定財源		8,764		
				一般財源		0	18,673	
				事業費の合計(千円)		21,062	18,673	
				人件費(千円)		7,587	6,917	

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	1.0	1.0	0.9			
会計年度任用職員	0.3	0.0	0.0			

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	商店街アドバイザー派遣事業	指標: 商店街アドバイザー派遣回数(回) 指標分析・目標未達の理由: 令和3年度はコロナ禍の影響により、利用がなかったが、令和4年度に向けて利用の要望もあることから、引き続き目標達成に向け取り組む。	各商店会が抱える課題の解決策を自ら解決してもらうため、専門家の助言を必要とする商店会の求めに応じてアドバイザーを派遣することで、商店会の活性化に寄与した。	コロナ禍の影響により利用がなかった。コロナ収束後の、商店街の課題解決へ活用してもらえるよう周知を行う。
02	鎌倉市商店街連合会助成事業	指標: 市内商店会の会員店舗数の合計(店舗) 指標分析・目標未達の理由: 店舗の入れ替えにより、商店会に入会しない新規出店店舗が多くなったことが考えられる。	商店街の近代化と経営の合理化の推進を目的とする鎌倉市商店街連合会に対し、その運営費及び事業費の支援を行うことにより、商業の振興を図った。	会員数の減少傾向が続いていること。
03	商店街街路灯等助成事業	指標: 対象街路灯数(本) 指標分析: コロナ禍による売上減少を勘案し、その費用負担軽減を目的に電気料金の全額補助を実施したことで、点灯街路灯増加の要因となった。	各商店会が支払った前年度分の街路灯及びアーチに係る電気料金を算定根拠として、電気料金の一部を助成することで、商店会の活性化及び地域の防犯に寄与した。	商店会の会員数減少により、街路灯の維持に対する負担感が増している。
04	商店街活性化事業助成事業	指標: 商店街活性化事業に申請した商店会数(団体) 指標分析: 臨時交付金を活用し、補助率を1/3→10/10としたことで、コロナ禍ながら予定の利用数に達した。	商店街団体が実施するソフト事業等に対する事業経費等を補助することにより、商店街のにぎわいの創出と地域商業の活性化を図った。	地域活性化のために、更なる助成が求められる。
05	商店街共同施設設置助成事業	指標: 商店街共同施設設置助成事業に申請した商店会数(団体) 指標分析・目標未達の理由: 令和3年度はコロナ禍の影響により、予定していた事業が実施できなかったが、令和4年度に向けて利用の要望もあることから、引き続き目標達成に向け取り組む。	商店会や中小事業者が組織する事業協同組合が設置する共同施設に要する経費を補助し、魅力ある商店街づくりの支援と、中小商業の振興を図った。	コロナ禍の影響により利用がなかった。地域活性化のために、更なる整備が求められる。
06	0			
07	0			

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか	1 事業費の削減余地はない
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか	3 外部化ができる事業はない
	関連・類似する事業の統合はできないか	3 統合できる事業はない
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか	1 市民ニーズは変わらずにある
	民間によるサービスで代替できる事業はないか	3 民間によるサービスで代替できる事業はない
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか	1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である
公平性	受益者負担は公正・公平か	○・負担導入済 ○-2 適正な受益者負担を導入している
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	△・協働未実施 △-2 市民等と協働して実施する事業はない
		協働実施済の場合のパートナー

(3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】	<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 改善・変更	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 休止・廃止
商店街にかかる各種事業に対して、地域の特性を生かした商店街づくりや地域コミュニティの継続のための商店会会員数の維持等を実現するための支援を行うことにより、引き続き、まちの活性化と地域産業の振興を図る。					

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)	市内商店会の会員店舗数の合計						単位	店舗
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
鎌倉市商店街連合会は市内商店会の連合組織であり、その構成員である会員店舗数の把握は補助金やその他補助を助成する上で必要であるから。	目標値	1,924	1,924	1,924	1,924	1,924	1,924	
	実績値	1,924	1,894					
	達成率	100%	98%					

指標(単位)							単位	
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	目標値							
	実績値							
	達成率							

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	商店街街路灯のLED化率(%)							
団体名	鎌倉市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	三浦市		
他市実績	80.9%	75.0%	73.0%	72.0%	78.8%	100.0%		

当該事業実施に伴う 他市比較に関する考え方	近隣他市と比較しても、商店街街路灯のLED化は進んでいる。
--------------------------	-------------------------------